

研究トピックス

山間地が育む 『味自慢』の野菜たち

「美味しさ」や「季節感」をアピールできる直売向け野菜の品目選定と生産安定に取り組みました。梅雨期の無臭ニンニク、初夏のソラマメ、夏から秋のミディトマト、スイートコーン、晩秋の大粒黒大豆のエダマメ、年末年始のユリネは、省力的に栽培でき、収量品質も安定しています。また、収穫後の取り扱いが容易で、児童や幼児の収穫体験用としても利用できます。（山間農業研究所）



ミカンの省力的施肥法の開発

露地ミカン栽培において肥効調節型肥料を用いた新しい施肥法を開発しました。この肥料は、長期間徐々に成分が溶出するため、年3回の施肥回数を年1回に減らすことができます。また、効率よく吸収されるため、窒素施用量を慣行肥料に比べ20%減らしても、果実品質や収量に違いは見られません。現在、現地試験により実用性を確認中です。

（園芸研究部）

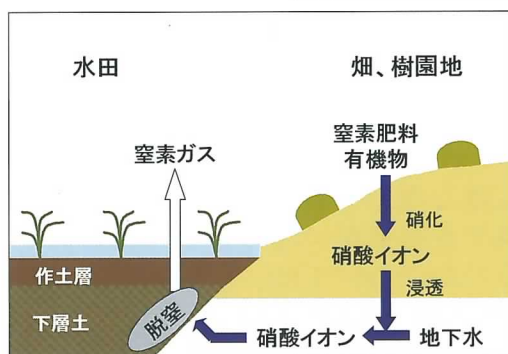


水田は下層土でも 硝酸イオンを浄化します

水田の作土層にある微生物による硝酸イオンの浄化機能（脱窒）は、下層土にも備わっていることがわかりました。

畑や樹園地に施用された窒素肥料や有機物に由来する硝酸イオンは、地下水に浸透し、水田下層土で脱窒されます。現在、下層土が年間に脱窒する量を調査中です。

（環境基盤研究部）



水田下層土における硝酸イオンの浄化

和牛放牧を展示しています

耕作放棄地を電気牧柵で囲い、和牛を放牧する取り組みが全国で行われており、県内でも中山間地を中心に増えています。雑草を減らし景観を整えるとともに、猪の隠れ家を無くすことから獣害対策としても期待されています。そこで、場内で和牛放牧の展示実証を行い、放牧に必要な技術の確認と問題点等の調査を行っています。

（畜産研究部）



放牧中の和牛

「水田は下層土でも硝酸イオンを浄化します」は(独)農業環境技術研究所の委託研究により得られた成果です。

編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>